

まとめ 今年度の調査により、遺跡の中心となるのは県道西側の2～5区であり、弥生時代から中世の集落が広範囲に展開していることが判明しました。集落の中心となる時期は平安時代で、掘立柱建物を中心とした集落が形成されていました。さらに、掘立柱建物が整然と配置されている様子から、計画的に建物が構築されていたことが分かります。加えて、建物の規模が大きいことから、一般的な集落とは考えがたく、公的な機能を有していた集落であった可能性もあります。
(清水孝之)



1区 全景



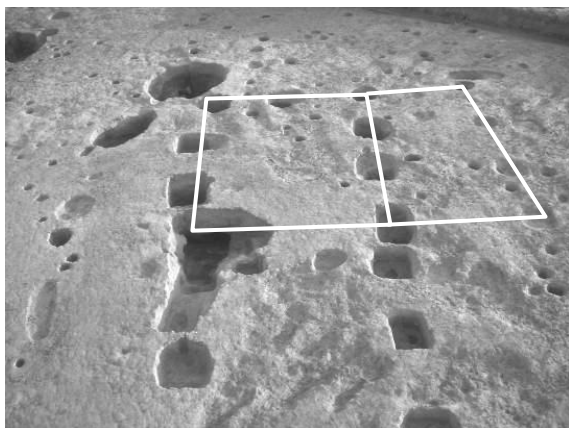
1区 方形周溝墓検出状況



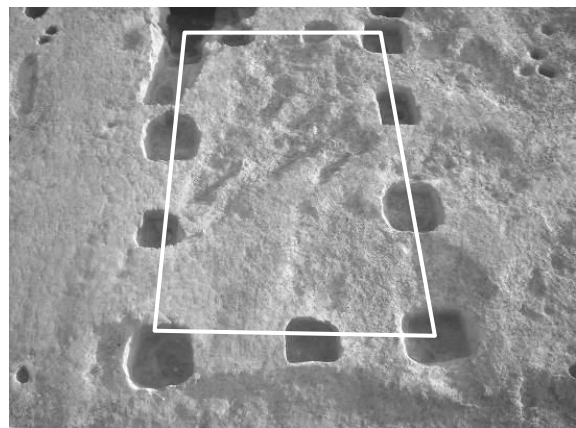
1区 井戸SE1底部施設検出状況



5区 井戸SE2検出状況



3区 掘立柱建物SB3検出状況



3区 掘立柱建物SB4検出状況